

告白

死を飛び越えることが宇宙である——
彼はそのように話した

私の憎しみの相手は居ない
だから、それを探している

私は哀しい
けれどそれは自分のものではないのかもしれない

定義という原理がある
それは確かに認識のために必要なのだと思う

何処へ行くつもりなのか
何処へ消えるつもりなのか

頷め讃える歌をうたえ
そして同時に憂いを舞え

結論を見ようとするのを放棄する
ひたすら時間に乗る続ける

お前は歓びを感じないのか
薄紙が舞い上がるような歓びを

だが、捉まえることは難しい
どんなに身構えていても

戸棚に並べられた幾種類もの菓
彼を滅ぼした処方箋

(2011.11.4)